

農業委員会だより

発行／編集 山陽小野田市農業委員会 TEL 0836-71-1645 令和 8 年 3 月



目次

会長あいさつ

②

「農業政策に関する意見書」

を市長に提出

②

認定農業者になりませんか

③

地域計画の実現に向け

動き出します

④

山口県立農業大学校

やまぐち就農支援塾紹介

⑤

奈良県農業研究開発

センターの視察を終えて

⑥

農業へチャレンジ

⑦

委員の活動報告

⑦

レシピ紹介

⑧

知って得する！農業者年金

⑧

編集後記

⑧

農業委員・

農地利用最適化推進委員の改選にあたり



山陽小野田市農業委員会 会長 田尾 光一

農地行政の推進につきましては、平素から格段のご配慮を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、令和6年夏頃からの全国的な米価の高騰は「令和のコメ騒動」に発展し、米の供給不足の懸念による備蓄米の放出、消費者の米の買い控えなど、令和7年は米の価格動向を注視した一年でした。また、近年の異常気象による高温多湿や病害虫被害の拡大は、野菜・果物の収量・品質等に影響を与えており、農業情勢に一喜一憂した年でもありました。

そのような中、地域におきましては、改正基盤法や農地バンク法に基づく地域計画の策定など、農業者の皆様に多大なご理解、ご協力をいただいたところであります。今後は、10年先の地域農業のあるべき姿である「農地の大規模化に伴う農作業の効率化」に向け、地域計画のブラッシュアップを図ってまいります。

さて、令和8年度は「農業委員

会等に関する法律」により、7月19日に農業委員・農地利用最適化推進委員が任期満了になります。

振り返ると、平成28年に担い手・後継者の不足、耕作放棄地の増加等の課題解消のため、国において農業委員会制度の改革が行われましたが、農業委員会は「農地等の利用の最適化の推進」という大きなテーマの下、担い手への農地の集積、農地パトロールの強化、新規参入者の発掘などに邁進してまいりました。また、市内の地域を14の担当区域に設定し、農業委員と農地利用最適化推進委員を各1名配置し、連携を密にして農業委員会サポートシステムによるタブレット端末を駆使して業務の合理化・効率化に努めてまいりました。

7月には新たな農業委員・農地利用最適化推進委員が選任されますが、引き続き農業者の皆様に寄り添いながら、これまで培ってきた絆が途切れることのないよう、農業委員・農地利用最適化推進委員と事務局が一丸となって精励してまいりますので、今後とも一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

令和8年度農業政策に関する意見書を提出

令和7年9月30日に会長、会長職務代理者及び幹事長が市長を訪ね、令和8年度農業政策に関する意見書を提出しました。

農業委員会は、毎年度、農地等の利用の最適化のより効率的かつ効果的な推進に資するため、翌年度の予算編成が始まる時期に、農業委員会等に関する法律第38条に基づき当該意見書を提出しています。

当日は、市から市長、副市長、経済部長及び農林水産課長が出席され、意見書の内容や昨今の農業情勢、市の農業施策などに関する意見交換をおよそ30分間行いました。特に会長から、全国農業新聞の普及に関する発言があり、購読数の拡張につながりました。

なお、今回提出した意見書の内容は、次のとおりです。

① 地域計画の変更に係る財源の確保

令和7年3月に地域計画は一旦策定されましたが、令和7年度以降10年間かけて見直す必要があることから、その経費に掛かる予算の計上

② 農業者の収入保険の推進による経営安定化対策
農業者のセーフティネットである収入保険への加入促進のための保険料の助成

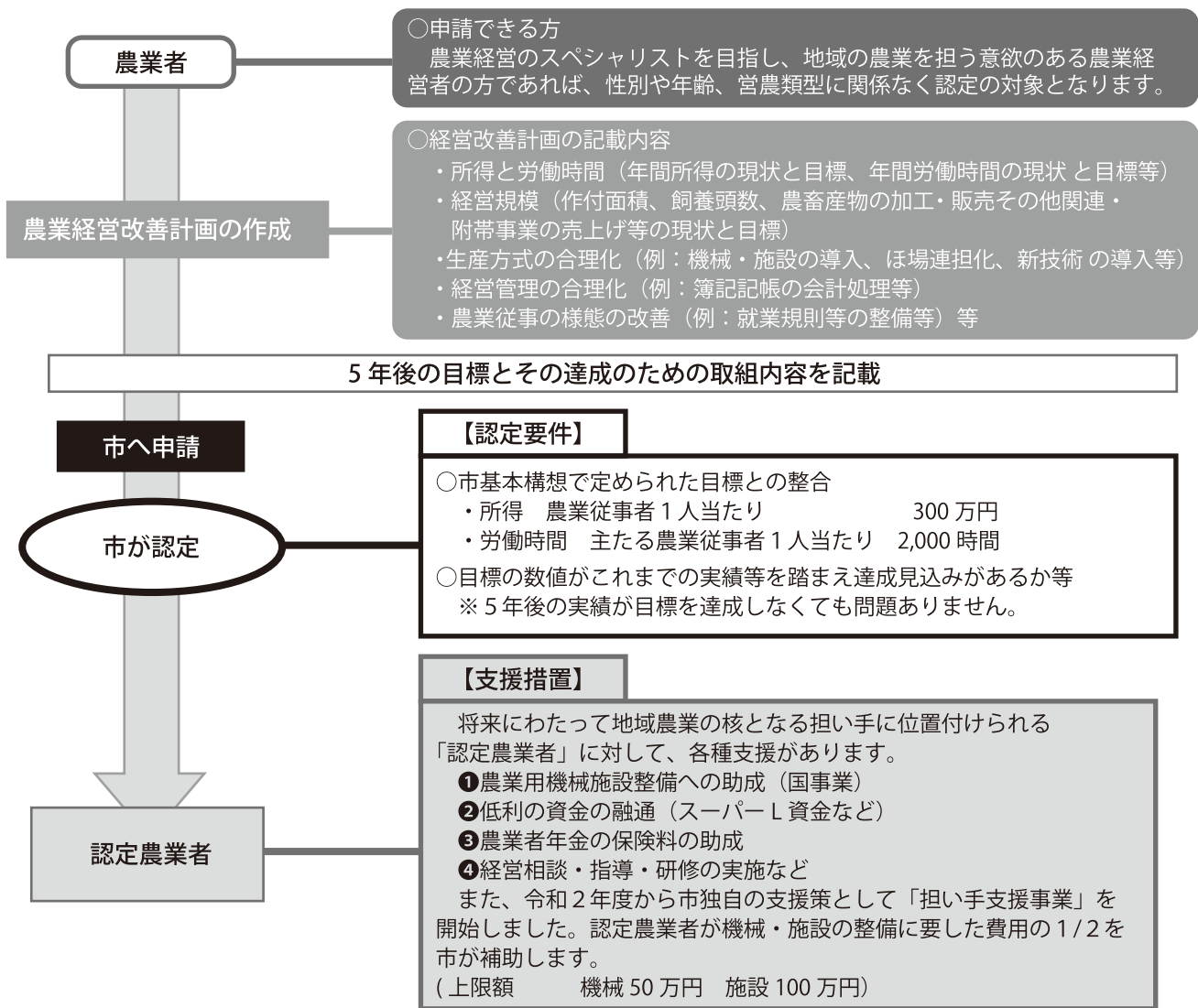
農業委員会の意見を参酌し、市の農業政策が立案されることを切望します。



認定農業者になりませんか

認定農業者とは

認定農業者とは、農業経営の改善を行うための「農業経営改善計画」を作成・提出し、市に認定された方のことです。計画を作成することで現在の経営状況を見つめ直すことができ、認定後は各種補助や融資を受けることができます。



■農業経営改善計画書の作成等についてご不明な点がございましたら、山陽小野田市役所 経済部農林水産課農林係までご相談ください。

TEL 0836-82-1152 FAX 0836-84-6937

全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

週刊 月4回金曜日発行

[新聞本紙] 月700円(税込)
[電子版] 月500円(税込)

※令和8年4月より購読料が改定されます。
[新聞本紙] 月900円(税込)
[電子版] 月700円(税込)

農業に関する情報満載!!

あなたの知りたいことが、きっと見つかる!!

新規就農
スマート農業
農産物高騰

10年後の将来図

読者の心に訴え、ともに考える

役立つ経営・技術情報

農政・農業の動き、問題をタイムリーに

解説に力点を置いた週刊新聞

親しみやすい地域の話題

※全国農業新聞の内容やご相談については、農業委員会にお問い合わせください。

地域計画の実現に向け動き出します

殖生地区(殖生干拓)



地域計画のこれまでの動き

地域計画とは

地域の農業を持続・発展させるため、農業者や関係者が集まって「理想の農業の姿」を話し合い、どの農地を誰がどのように使うかを決める将来設計図です。

地域計画による

これまでの動き

令和5年に農業経営基盤強化促進法が改正されたことにより、令和7年3月までに地域計画を策定することが義務付けられました。これにより、この2年間で9地区25区域において協議の場を設けた結果、約300人の参加をいただきました。その場で様々なご意見をいただき、令和7年3月31日に策定することができました。

理想と現実のギャップ

協議の場では次のような課題が浮き彫りとなりました。

- ・担い手不足(高齢・離農・後継者)
- ・耕作条件が悪い(基盤整備が行われていない)
- ・鳥獣被害が多い(耕作意欲の低下)

これらは一例にすぎませんが、多くの地域で寄せられたご意見を進めなくてはなりません。もちろん、これらの課題は一朝一夕に解消できるものではありません。

これからの地域計画

今年度からは、策定済みの地域計画をブラッシュアップしていく作業に入ります。新たな課題が出てくることも考えられますが、10年後の「理想の農業の姿」に向け、一歩でも歩を進めていくために、各地域の協議の場で引き続き関係者の意見をよく聴いて、未来の農業へつなげていきたいと考えております。

山口県立農業大学校・やまぐち就農支援塾

学生教育と社会人研修を両輪に、次世代の農業・農山村を担う人材を育成しています。

農大から始まる豊かな未来！ 農業に新しい風を！！

農林総合技術センターと共に、知と技の拠点で「学生教育」と「社会人研修」を2つの柱とし、山口県の農業・農村を支える人材を育成しています。

実践教育

学生自らが「課題」「計画」「実行」「評価」するプロジェクト学習法により農業の実践力を養います。
また、GAPやスマート農業、新品種の栽培など学科毎に異なる先進的な農業にも取り組んでいます。

個々の学生に応じた進路指導

本人が希望する就職・就業に確実にむずびつけるために、就業ガイダンス、短期研修（インターンシップ）1か月間の先進農家派遣研修（2年次）、等を実施します。

自主・自立を育む教育

寮生活での共同生活を通じて、親密な仲間づくりや協調性、コミュニケーション能力を養い、自主性・自立性を育みます。

3つの特色

土地利用学科

水田約3.8haでの実習や近隣の農業法人での研修等、本県農業の基幹となる水稲を軸に、水田における麦、大豆及び露地野菜生産に関する知識や生産技術、機械操作技術等を学びます。



園芸学科

野菜栽培コース 花き栽培コース 果樹栽培コース
3コース・60棟以上のハウスや果樹園2haを含む約3.5haのほ場で毎年30品目100以上の品種を栽培。多種多様な作物で、基礎的な技術、IPMなどの応用的な技術、JGAP、総合環境制御やスマート農業など最新技術を学びます。



畜産学科

畜産経営コース 肉用牛飼育コース
2コース・乳用牛20頭・肉用牛50頭の飼育管理をはじめ、人工授精、自給飼料、堆肥製造、畜産加工など、畜産経営に関する幅広い知識・技術を学びます。



◆ 農業大学校 (学生教育)



本校では実習を中心に実践学習を行っています。また、学生の自主活動や寮生活を通じて、社会生活で必要となるスキル向上と、個々に応じた進路指導を実施し、進路決定率100%を達成しています。

★ オープンキャンパス日程（令和8年度予定）

- ① 7月下旬 ② 11月中旬 ③ 3月下旬
日程は決定次第、HPに掲載されます！
HP：<https://www.yamaguchi-noudai.jp/>



ドローン操作体験

収穫体験

牛の管理体験

◆ やまぐち就農支援塾 (社会人研修)

★ 短期入門研修<広く農作業を体験する3日間研修>

実施時期：5/下、7/上、9/中、12/上
募集時期：各実施時期の2か月前頃から

★ 作目基礎研修<休日に学ぶ3年10回~の作目別研修>

実施時期：4月~12月頃
募集時期：例年1月下旬~3月上旬

★ 担い手養成研修<1年間の実践的なフルタイム研修>

実施時期：3月中旬~翌年3月末
募集時期：例年8月頃~翌年2月頃



イチゴ栽培

はなっこりー出荷

ラジコン草刈機

お問い合わせ

山口県農林総合技術センター
農林業担い手支援部
(山口県防府市牟礼10318)

TEL 0835-38-0510
FAX 0835-23-0843



奈良県農業研究開発センターの視察を終えて



幹事長
木村 芳則

私たち農業委員・農地利用最適化推進委員は、先進的な農業技術や事例の視察を通じて農地の利用最適化や農業振興に必要な知識や情報を得ることを目的として、令和7年11月20日に奈良県桜井市にある奈良県農業研究開発センターを訪問しました。

センターは、敷地面積約9・8ヘクタール、研究・研修ほ場約3万1千平方メートル（うち温室・パイプハウス約1万2千平方メートル73棟）という広大な場所に平成28年から移転し、研究員約40名、作業員35名で研究開発に取り組んでおられました。そして、奈良県内3市に果樹・薬草研究センター、大和茶研究センター、大和野菜研究センターを設け、奈良県の食と農の振興にかかる研究開発に取り組んでいるということでした。また、「食と農の魅力創造国際大学校」という農業大学校も併設しています。

センターでは、5つの研究目標「新たな奈良県農業の取組を支える」「新『奈良の食』の魅力を活かす」「新

技術に取り組む特定農業振興ゾーンを支援する」「大規模産地の継続的な発展を支える」「将来の環境変化に対応する」に重点を置き、生産者及び消費者のニーズを汲み取った品種育成や技術開発を行っているそうです。

全体的な概要説明を受けた後、研究・研修ほ場（温室）で、若い研究員の皆さんからお話を聴きました。露地菊の栽培、ダリアの球根の栽培、枝物の栽培、最近は暑さ対策の対応研究が多くなってきたということでした。研究内容を少し紹介します。



イチゴは、奈良県を代表する農産物の一つで「アスカルビー」「古都華」「ならあかり」など沢山の品種があります。高設ベンチを使った「高設栽培」で土の代替として使っているおがくずの消毒の時期や期間の研究、また、イチゴ栽培では、ミツバチが主な受粉手段ですが、低温期には活動が鈍るため、センターでは、より広い温度範囲で活動できるヒロズキンバエ（商品名ビーフライ）を代替として導入するための研究に取り組んでおられました。



最近には秋に植えて春まで花が楽しめるパンジー、苗床から9cmポットに植え替える時の用土でビートモスの代替として「もみ殻」を利用するための研究がされていきました。京阪神大消費地に近い立地条件を活かし、高収益な園芸作物（イチゴ、トマト、花き）の施設栽培が盛んに行われ、また、若手農業者の育成やブランド化への意識が高く、新しい技術への投資意欲が感じられました。この研修視察で得たことがこれからの活動の中で活かさればと思っています。

奈良県農業研究開発センターで、日ごろの研究の様子がよく分かるような熱心な説明、対応して下さった研究員のみなさん、お礼申し上げます。

農業へチャレンジ



私は宇部市厚東で高校卒業まで過ごし、県外で就学・就職しました。その後、都会での生活に疲れてしまい50歳で地元に戻ってまいりました。本当は定年後地元に戻って年金生活をしながら、実家の宇部市で60アールの農地を利用し、細々と生活する予定でした。ただ山陽小野田市でアスパラガスのハウスを3棟営む叔母に継承者が居ないことから、その隣の農地を借りて追加で3棟建ててアスパラガスを

生産者 杉野 貴洋さん

定植し、農業一本で生計を立てていこうと決意致しました。

ただ、兼業農家で生まれ育ったものの、営農に関しては素人の私が「さあどうしよう」と悩んでいたところ、叔母からグリーンハウスを紹介してもらい、そちらで2か月研修をさせて頂きました。その後1年間、山口県立農業大学校で社会人の担い手研修を経て、昨年農業デビューを果たしました。

それ以来、ズッキーニ、アスパラガス、ナス、水稲、ハナッコリーと少しずつではありますが経験と積んでまいりました。今のところ、私の農業は「戦」です。何とか戦いに勝てるよう努力してまいります。今日に至るまでグリーンハウスの会長はじめ従業員の方、また、土地を貸してくださった方や野菜の部会の方には大変お世話になり感謝の気持ちで一杯です。これまで受けたご恩をいい商品で出荷できるよう精進して参る所存です。今年2年目で何とか昨年以上の成果を上げられるよう頑張りますので、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

委員の活動報告



農業委員
保坂 健次

昨年の4月、農業委員の欠員に応募したところ、議会の同意を得た後、市長から辞令を交付され、6月1日から農業委員として活動することになりました。

実際の活動は、設定された担当地区で毎週行う農地パトロールや農地利用状況調査及び利用権設定に伴う調整並びに農地法に係わる現地調査と多岐にわたる課題に対応するものでした。

このような活動の中から見えて来たものがありました。一つは、早めの相談を受けられる仕組みです。もう一つは、農地を耕作したい人と農地管理が難しくなった人を繋ぐ体制を強めていくことです。

最後に、耕作放棄地の解消は重要ですが、そうなった背景が一人ひとりに必ずあるはずで、耕作放棄地の解消を求めればかりでなく、その人の気持ちに寄り添い、人の痛みのわかる農業委員活動を目指して、一歩ずつ取り組んでいきたいと思えます。



農地利用最適化
推進委員
伊藤 和彦

私は農地利用最適化推進委員に委嘱され、担当地区は山川地区です。この地区は、水の便も整っており、作物は主に稲作や野菜等が栽培されています。反面、日照条件の悪い所では不耕作地域も増え、高齢化も重なり危機的な状況になりつつあります。

私はそのような悪条件にある所有者の方々にも、耕作が不可能な場合は、将来に向け保全管理を依頼してまいりました。そのような折、若い方から田を借りたいとの申し出が有り、一筋の光が見えた様な気がしました。これからは、担い手の育成が重要になってくると思えますので、市が中心となり、補助を出すなど担い手の育成に努めていただければと思っております。

また、機械、肥料、農薬共に高額になって来ていますので、法人化、オーナー制度を取り入れ、活路を広げることができるよう協力していききたいと思えます。



レシピ紹介

材料 (3~4人分)

- ・ブロッコリー……150g
- A {
 - ・天ぷら粉(市販)……100g
 - ・水…………… 100cc
- B {
 - ・しょうゆ…………… 大さじ1
 - ・砂糖…………… 大さじ1
 - ・みりん…………… 大さじ1
 - ・酢…………… 小さじ1
- ・白ゴマ…………… 適量
- ・揚げ油…………… 適量



あまからブロッコリー

農業委員 五十嵐 奨

ブロッコリーは万能野菜で油との相性が良く、天ぷらやフライなどの揚げ物にもおすすめです。茎も皮を厚めにむいて、食べやすい大ききで使ってください。



<作り方>

- ①ブロッコリーは小房に切り分け、大きいものは半分に切る。
- ②Aをよく混ぜ、①を入れて絡める。
フライパンで揚げ油を熱し、カリッとするまで揚げて油を切る。
- ③フライパンをきれいにし、Bを入れて火にかける。
フツフツとしてきたら火を止め、②を加えて絡める。
全体に味が絡まったら白ゴマをふって完成。



※②はボウルでもできますが、ビニール袋を使うと洗い物が減らせます。



終身年金で安心!

詳しくは… 農業者年金基金 検索

※農業者年金の内容やご相談については、農業委員会にお問い合わせください。

加入資格

- ・年間60日以上農業に従事している方で、
- ・国民年金第1号被保険者(60歳未満)又は、国民年金の任意加入者(60歳以上65歳未満)

○保険料は全額社会保険料控除の対象になるなど、生涯を通じて大きな節税効果があります!

○一定の要件を満たす方には、月額最大1万円の保険料補助があります!

○農業者なら誰でも入れる「終身年金」です!

知って得する!
農業者年金



編集後記

私が担当する地域は、ほとんどが小規模農家です。農地も住宅との間に挟まれているところがほとんどです。

農地パトロール等で歩いていると、農家の方から「来年も田を作られるだろうか。後継者もないし、肥料・農業等の資材も値上がりするし、機械が使えなくなったらやめるしかないしね。」と言われます。なかなか農地を引き受けていただけの方がいなくて、だんだんと荒廃地が広がっていくように感じました。新聞等にも離農する農家が増えていると載っています。農家を取り巻く情勢はとても厳しい現状だと思えます。関係機関の方々としっかり現状を把握していきたいと思えます。

相本 まゆみ

農業委員に就任して10年が過ぎました。農業をめぐる状況は相変わらず厳しく、特に担い手不足が深刻です。私の担当地区でも、高齢のために離農し、後継者がいないケースが少なくありませんでした。年を追って荒れていく農地を毎年現地調査するのは、なかなか辛いものです。

もともと、農業は米作だけではありません。私の担当地区で、野菜の栽培のために何枚も田んぼを借りて就農された方もおられました。荒れた田んぼが耕作されている様は良いものです。これからも農業に可能性を感じてチャレンジする方が出てくることを切に願いますし、そのための環境が整うよう、努力してまいります。

森田 祐三